

修了要件・履修方法

I. 修了要件

修了単位数は30単位以上を必要とする。詳細は「V. 履修方法」を参照のこと。

4年次終了までに所定の単位を修得し、学位を取得した者を修了とする。

なお、4年次終了までに所定の単位を修得できなかった者、学位を取得できなかった者は修了延期とする。 ※修了延期者の学費は1年を限度として免除する。

II. 学位記授与

学位記授与は春季入学者に対しては3月、秋季入学者に対しては9月に行うこととする。

III. 研究内容中間報告会について

研究の進捗状況の確認およびレベルアップを目的に、学位論文審査を希望する日の10カ月以上前に研究内容中間報告会を実施すること。

IV. 学位論文の提出

学位申請手続用紙に必要事項を記入し、必要書類をそろえて学事部大学院係（旗の台キャンパス）に提出すること。

V. 専攻課程領域と専攻科目

専攻	専攻課程領域	専 攻 科 目
歯 学 専 攻	歯科基礎医学系	口腔解剖学※ 口腔生理学※ 口腔生化学※ 口腔微生物学※、 歯科薬理学※
	口腔病態診断科学系	口腔病理学※ 歯科放射線医学
	歯科保存学系	歯科理工学※ 美容歯科学 歯内治療学 総合診療歯科学
	先端歯科学系	歯周病学 歯科矯正学 歯科補綴学 インプラント歯科学 口腔外科学
	全身管理歯科学系	歯科麻酔科学 総合内科学 高齢者歯科学 小児成育歯科学
	スペシャルニーズ 口腔医学系	障害者歯科学 地域連携歯科学 顎関節症治療学 口腔リハビリテーション医学 口腔衛生学※ 歯学教育学※

※基礎系科目

VI. 履修方法

- 履修課程は専攻課程領域の中から一つ選択し、さらに、その専攻課程領域の専攻科目を履修することとする。
- 各自所属している講座・部門の専攻科目を教授の指導のもと履修すること。
- 履修方法は原則として次のとおりとする。

① 主科目：専攻科目：10単位以上（専門医コースでは臨床実習が10単位以上）

※「講義・演習」6単位以上、「実習」1単位以上必須

② 副科目：同じ専攻科目が開設する授業科目：4単位以上（専門医コースでは2単位以上）

※「講義・演習」・「実習」とあわせて4単位以上を履修

③ 共通科目、選択科目：合計2単位以上

1) 共通科目：A. 昭和大学大学院が開設する授業科目

B. 4 大学院チーム医療

2) 選択科目：歯学研究科が開設する授業科目

A. 歯学研究特論：1 単位以上

B. リカレント教育：8時間まで「歯学研究特論」の履修時間に算入することができる

C. 歯学概論（補完的教育プログラム）：歯学以外の学習歴の大学院生への補完：1 単位

④ 英語(Clinical and Research English)：必修2単位、選択1単位（一般選抜は必須）

＊ 指導教員が認めた場合は、研究に必要な事項として上記以外の科目を主科目・副科目として履修することができる。

＊ 履修登録は、事前に当該授業科目の担当教員と授業履修方法等について相談のうえ行うこと。

4. 単位は原則として3年次末までに修得し、4年次以降は研究課題に即した研究指導を受けるものとする。

5. 本研究科の学生は必要に応じて、所定の手続を経て、他大学大学院、研究所または高度な水準を有する病院において研究指導を受け、その科目を履修することができる。ただし、外部の大学、研究所、病院での指導を受ける場合は事前に登録し、手続を完了しておくこと。

6. 単位の計算は、60分以下は1時間とし、60分超から120分は2時間とする。

講義・演習は20時間で1単位、実習は40時間で1単位とする。

（一般選抜）

上記開設の主科目、副科目については、指導教員と相談し、学年ごとにそれぞれ下記の最大単位内で単位を履修する。

4年目は原則として、指導教員のもとで学位論文を完成させる。

学年	講義・演習最大単位(時間)	実習最大単位(時間)	合計最大単位
1	4(80 時間)	4(160 時間)	6 単位
2	4(80 時間)	4(160 時間)	6 単位
3	4(80 時間)	4(160 時間)	6 単位
4	2(40 時間)	2(80 時間)	4 単位
合計	10(240 時間)	12(480 時間)	20 単位

履修例

学年	主科目 講義・演習	主科目 実習	主科目 合計	副科目 講義・演習	副科目 実習	副科目 合計
1	4 (80 時間)	2 (80 時間)	6 単位	2 (40 時間)	1 (40 時間)	3 単位
2	4 (80 時間)	1 (40 時間)	5 単位	2 (40 時間)	1 (40 時間)	3 単位
3	3 (60 時間)	1 (40 時間)	4 単位	2 (40 時間)	0 (0 時間)	2 単位
4	0 (0 時間)	0 (0 時間)	0 単位	0 (0 時間)	0 (0 時間)	0 単位
合計	11 (220 時間)	4 (160 時間)	15 単位	6 (120 時間)	2 (80 時間)	8 単位

[主科目] 15単位 + [副科目] 8単位 + [共通・選択科目] 7単位 = 30単位

(社会人特別選抜)

上記開設の講義・演習・実習から、指導教員と相談し、学年ごとに下記の最大単位内で単位を履修する。(一般用に開設した講義・演習・実習を履修することも可能)

学年	講義・演習最大単位(時間)	実習最大単位(時間)	合計最大単位
1	2(80時間)	2(80時間)	4単位
2	2(80時間)	2(80時間)	4単位
3	2(80時間)	2(80時間)	4単位
4	2(40時間)	2(80時間)	4単位
合計	8(160時間)	8(320時間)	16単位

履修例

学年	主科目 講義・演習	主科目 実習	主科目 合計	副科目 講義・演習	副科目 実習	副科目 合計
1	3(60時間)	1(40時間)	4単位	2(40時間)	1(40時間)	3単位
2	3(60時間)	1(40時間)	4単位	2(40時間)	1(40時間)	3単位
3	3(60時間)	1(40時間)	4単位	1(20時間)	0(0時間)	1単位
4	2(40時間)	1(40時間)	3単位	1(20時間)	0(0時間)	1単位
合計	11(220時間)	4(160時間)	15単位	6(120時間)	2(80時間)	8単位

[主科目] 15単位 + [副科目] 8単位 + [共通・選択科目] 4単位 + [英語] 3単位 = 30単位

VII. 授業科目と受講方法

①主科目：基本的に専攻科目とする。

②副科目：基本的に同じ専攻系の科目とする。

①、②ともに臨床実習も実習とする。

受講方法：受講後、《大学院歯学研究科履修表》に受講時間数を記録し、指導教員の捺印を受ける。※受講時間数は60分以下を1時間、60分超から120分を2時間とした時間のこと

③共通科目

A：共通科目（基礎系科目が開講している）

下記共通科目について全学研究科の学生が受講できるものとする。

担当教員： 大学院歯学研究科ならびに医学研究科指導教員

取得単位数： 1科目につき1単位

履修区分： 選択

対象学年： 1年

教育目標： 大学院で研究を開始するにあたり、研究の進め方、科学論文の読み方、実験のイロハ、および実験結果の統計的処理方法など研究者に共通の知識及び技術について教育する。

履修方法： 1. 共通科目は原則として1年次で修得すること。

2. 履修を希望する科目名は、あらかじめ所定の書式で学事部大学院係に提出すること。提出時期はオリエンテーションの際に通知する。また、履修する科目数に上限はないが、同一科目内では1教室以上選択することはできない。
3. 各科目の担当教室から1教室を選択し履修すること。
4. 開講日は各科目の時間割を参照し、履修に際しては、事前に担当教員に受講希望日を連絡すること。受講希望の連絡時期については各科目の日程表を確認すること。
5. 共通科目1科目あたりの履修時間
 - ・必修8回＋選択2回の計10回（1回は90分）を履修する。

＜共通科目＞※太斜字が歯学研究科開講科目

科 目	担 当 教 室
① 生体の組織構造解析法	解剖学(顕微解剖学分野)、解剖学(肉眼解剖学分野)、 口腔解剖学、口腔病理学
② 生体の病理病態学的解析法	臨床病理診断学、 口腔病理学
③ 生体の機能解析法	生理学(生体制御学分野)、生理学(生体調節機能学分野)、薬理学(医科薬理学分野)、薬理学(臨床薬理学分野)、 口腔生理学、口腔衛生学、歯科理工学
④ 生体内の物質分析法	生化学、法医学
⑤ 分子生命科学的解析法	微生物学、腫瘍分子生物学研究所、 口腔生化学、口腔微生物学
⑥ 医学生物における統計学的解析法	衛生学公衆衛生学(衛生学分野)、衛生学公衆衛生学分野(公衆衛生学分野)、 歯科薬理学

受講方法：

1. 受講時は別紙《共通科目受講票》に指導教員の印を受けること。
2. 履修終了時は別紙《共通科目履修報告書》を記入し、《共通科目受講票》を添付して、その科目の指導教授に提出し承認を受けること。承認後、《共通科目履修報告書》と《共通科目受講票》を学事部大学院係に提出すること。

B. 4 大学がんチーム医療

責 任 者： 木内 祐二（医学部 医科薬理学）

取得単位数： 1 単位以上

履 修 区 分： 選択

対 象 学 年： 2 年生以上

教 育 目 標：

1. がんチーム医療の意義と、患者中心のがんチーム医療の実践に求められる基本的な知識、技能、態度を説明できる。
2. がん患者の治療やケアの問題点を、多職種による医療チームの討議により抽出し、共有することができる。
3. がん患者への最善の治療やケアを、科学的根拠と医療チームの討議により提案できる。
4. がん患者の心理状態や希望などに配慮して、医療チーム全体で対応するための討議と提案ができる。

4 大学院がんチーム医療は、必修の講義とワークショップを履修し、かつ合計20時間

で1単位とする。

なお、科目等履修生は、学部生時に必修のワークショップを履修できないので、講義受講時間のみ大学院入学後に持ち越しとする。

④選択科目

A. 歯学研究特論

担当教員： 大学院歯学研究科指導教員

取得単位数： 1単位以上

履修区分： 選択

対象学年： 1年

教育目標：

1. 大学院で研究を開始するにあたり、研究の進め方、科学論文の読み方、実験のイロハ、および実験結果の統計的处理方法など研究者に共通の知識及び技術について教育する。
2. 幅広い視野に立って専門の研究を遂行できるように、最近の歯科基礎医学の現状について入門的な内容を学ぶ。
3. 幅広い視野に立って専門の研究を遂行できるように、最近の歯科医療の現状について入門的な内容を学ぶ。

開設テーマ：

1. 研究入門：2テーマ
2. 口腔科学特論：39テーマ
3. 臨床特論：34テーマ

※各テーマの内容および時間数については、添付の資料を参照のこと。

履修方法：

1. 上記の各テーマから1単位（20時間）以上選択すること。
※別紙《履修選択表》に記入のうえ学事部大学院係に提出すること。提出期日は別途通知する。
2. 各指導教員と必要があれば、細部の日程を調整して受講する。

受講方法：

1. 受講時は別紙《大学院履修カード》に指導教員の印を受けること。
2. 履修終了時は上記の《大学院履修カード》を記入の上、平成29年4月7日までに学事部大学院係に提出すること。

B. リカレント教育

1. 本学大学院では、卒業生および社会人を対象としてリカレント教育を実施する。
2. リカレント教育では卒業生および社会人を対象とするが、大学院生の受講も積極的に受け入れることで、在校生と社会人卒業生の交流の機会とすることも目的とする。
3. シラバスに記載または随時公表されるリカレント教育に出席した場合、出席1回につき2時間までとして「歯学研究特論」の履修時間に算入することができる。ただし、算入することができる時間数は、8時間とする。

4. リカレント教育セミナーに出席した場合は、当日会場で身分証明書を提示し、「昭和歯学会総会・例会・後援セミナー受講票」に会場で検印を受けること（身分証明書を提示しない場合は履修を認定しない）。

C. 歯学概論（補完的教育プログラム）：

担当教員： 山本 松男（歯周病学）

大学院歯学研究科指導教員（下表参照）

取得単位数： 1 単位

履修区分： 歯学以外のバックグラウンドを持つ大学院生は必須

対象学年： 1 年または 2 年次の指定した時期

教育目標： 歯学研究科で研究を開始するにあたり、歯学以外のバックグラウンドを持つ大学院生に対して、博士（歯学）を取得するために必要とする歯学に関する基礎的事項を習得する。

履修方法： 講義（履修項目は下表参照）

下記から指定した 10 項目（1 回 90 分） 合計 10 回

履修項目並びに担当教員：

口腔領域の解剖学・組織学概論	中村 雅典
顎口腔顔面の生理学概論	井上 富雄
硬組織の生化学概論	上條 竜太郎
口腔の微生物学概論	桑田 啓貴
顎顔面領域の病理学概論	美島 健二
歯科治療に関する薬理学概論	高見 正道
口腔環境の衛生学概論	弘中 祥司
歯科材料の理工学概論	宮崎 隆
歯科保存学概論	真鍋 厚史
歯周病学概論	山本 松男
歯科矯正学概論	槇 宏太郎
歯科補綴学概論	馬場 一美
口腔外科学概論	代田 達夫
歯科麻酔科学概論	飯島 毅彦
小児歯科学概論	
歯科放射線学概論	荒木 和之

⑤. 英 語(Clinical and Research English) ※詳細はシラバス参照

※この科目は、歯学研究科・薬学研究科合同クラスで行います。

担当教員： Michael W. Myers, Ph.D.

取得単位数： 必修 2 単位、選択 1 単位

履修区分： 必修（一般選抜）または選択（社会人特別選抜）

対象学年： 1 年（一般選抜）または 2 年（社会人特別選抜）

Ⅷ. 専門医コース

①目的

専門医取得を希望する大学院生に十分な臨床実習と専門医取得の準備を行うことを可能にするために、臨床実習の充実を目的とし、大学院希望者の多様なニーズに応える。

②申請

大学院入学後に主科目・副科目選択時に申請を行う。

③履修条件

- ・日本歯科医学会専門分科会・認定分科会、もしくはそれに準じると大学院運営委員会で認められた学会であり、専門医・認定医の取得が可能な学会に加入する。なお、主科目または副科目の担当講座（およびその関連診療科）に所属することで資格取得可能な学会に限る。
- ・該当学会学術大会・講演会への出席を3回以上必要とする。
- ・臨床実習の単位を10単位以上必要とする。

④履修上の配慮

上記を満たした際は、副科目の最低履修単位数を4単位から2単位に減じる。

ただし、上記の履修要件を満たしていない場合は4単位のままとする。

Ⅸ. 成績評価

- ・成績評価は下記の通りとし、《履修証明書》に担当教授が記入するものとする。

優 実験・実習・演習・論文作成過程において極めて優れた成果を挙げている。

良 実験・実習・演習・論文作成過程において優れた成果を挙げている。

可 実験・実習・演習・論文作成過程において最低限必要な知識があり、単位取得に値する。

不可 実験・実習・演習・論文作成過程において不十分であり、単位取得に値しない。

参考：単位取得の目安

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	注釈
①主科目	必	必	必	必	必	必	必	必	必	必			10単位以上
②副科目	必	必	必	必									4単位以上
③共通科目													③④計2単位以上
④ 選 択 科 目													特論：1単位以上
													リカレント教育
													概論：1単位まで
⑤英語	必	必	必										3単位（一般）

- ・①10単位+②4単位+③④2単位＝16単位で、残りの14単位は①～⑤から選択する。
- ・一般選抜は⑤が必須。
- ・歯学以外のバックグラウンドを持つ大学院生は④選択科目（歯学概論）が必須。
- ・専門医コースでは臨床実習10単位以上を必要とし、副科目の最低履修単位を2単位以上とする。